



文化の中之島に新たな拠点 大阪中之島美術館オープン

NAKANOSHIMA MUSEUM OF ART, OSAKA

美術館や博物館、ホールなどが集まる“文化の中之島”に、今年2月、新たな拠点がオープンした。1983年に大阪市が構想を発表して39年、モディリアーニや佐伯祐三など、国内有数の近代・現代美術作品6,000点以上を所蔵する大阪中之島美術館だ。同館が目指しているのは、その豊富なコレクションを様々な切り口で組み合わせ、何度もリピートしたくなるような新しい美術館。館長の菅谷富夫氏は、「多くの作品をご覧いただくために、さまざまな仕掛けを考えている。そして展覧会はもとより、訪れること自体が楽しみとなるような色々な使い方をさせていただきたい。ここでの体験が一人ひとりの未来を変え、大阪の未来を変えていこう(1月28日・プレス内覧会にて)」と語る。

大きな作品も余裕で展示

大阪中之島美術館は、黒い直方体の箱が地面から浮き上がっているような外観をしている。地上5階建ての鉄骨・基礎免震構造で、延床面積は約1万8,000㎡。1～5階まで吹き抜けになっている。

1、2階は入場無料の通り抜け可能なエリアで、1階にはレストランやインテリアショップ、2階にはミュージアムショップなどがあり、展覧会の鑑賞目的でなくても気軽に立ち寄ることができる。

チケットカウンターは2階。展示室へはここから長いエスカレーターで開放的な吹き抜けをゆっくりと上り、4階や5階へ向かう。しばしその間、来館者はこれから作品と対面するワクワクした気分を味わうことだろう。4階(1,400㎡)には約60mの展示ケースが設置され、長大な日本画も鑑賞できるようになっている。そして、5階(1,700㎡)は6mの天井高を確保し、大規模な立体作品も間近で観ることができる。



4階展示室にて(2月1日内覧会にて)

世界もうらやむコレクション

同館が専門に扱うのは、19世紀後半から現代に至る国内外の美術とデザイン。大阪ゆかりの作家の作品も豊富で、実業家で美術コレクターの山本發次郎が所蔵した佐伯祐三(1898～1928)の代表作42点をはじめ、戦前の大阪画壇を代表する小出楯重、北野恒富、島成園や、戦後の前衛芸術運動を牽引した「具体美術協会」のリーダー・吉原治良らの作品を中心に、5,000点に及ぶ寄贈と購入作品を合わせて6,000点を超えるコレクションをもつ。

西洋近代美術では、アメデオ・モディリアーニ(1884～1920)やキスリング(1891～1953)などのエコール・ド・パリ(パリ派)のコレクションが充実。キュビズム、ダダイズム、シュルレアリスムなど、20世紀前半にヨーロッパを中心に展開した前衛的作品も多い。

また、サントリーポスターコレクション(約18,000点)から寄託されたアンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック(1864～



佐伯祐三《郵便配達夫》1928年／4階展示室(2月1日内覧会にて)

1901)やアルフォンス・ミュシャ(1860~1939)をはじめ、国内外の優れたグラフィック作品も豊富。大阪出身のグラフィックデザイナー・早川良雄(1917~2009)ら、大阪と関わり深い近代・現代デザイナーのポスターや家具などの作品も国内随一の所蔵を誇る。

つながることで発展

2階には隣接する国立国際美術館や芝生広場などの敷地とつながるよう、歩行者デッキが設置されている。こうした多方向に出入口を設けたパッサージュ(遊歩空間)は同館設計の基本思想で、中之島に集まる文化施設などへ気軽にアクセスできるようにすることで、まちの回遊性を高めることを狙いとしている。

また、パッサージュによる魅力的な「場づくり」によって、情

報や知識、発見、感動の循環と活用を促すことも目指している。例えば、将来の文化を担う子どもに向けて、専門機関と連携した教育プログラムの展開や、大阪を拠点に活動するアーティストの作品を発表するなど、多様な第三者との連携によって事業の発展を図ることを重視。そうしたつながりを原動力に、社会の一員として変化し続ける美術館として、中之島から「ひと・こと・もの」が歩みを共にすることを目指している。



ヤノバケンジ《SHIP'S CAT (Muse)》／芝生広場にて

主な展覧会スケジュール

開館記念展

みんなのまち 大阪の肖像

[第1期]「都市」への道標。 明治・大正・昭和戦前

4月9日(土)~7月3日(日)

[第2期]「祝祭」との共鳴。 昭和戦後・平成・令和

8月6日(土)~10月2日(日)

美術とデザインを両輪とする同館ならではの展覧会。過去1世紀半に大阪が見せた多彩な“肖像”を紹介し、大阪をめぐる時空の旅へと誘う。懐かしい大阪を感じ、知らない大阪を発見する機会となる。



①



②

開館記念特別展

モディリアーニ — 愛と創作に捧げた35年 —

4月9日(土)~7月18日(月・祝)

人物の内面を捉えた肖像画で知られるモディリアーニの作品約40点を集めた、日本では14年ぶりの回顧展。交流のあったピカソや藤田嗣治らエコール・ド・パリの作品も展示。



③

ロートレックとミュシャ

パリ時代の10年

10月15日(土)~2023年1月

9日(月・祝)

ロートレックとミュシャのパリ時代に焦点を当てた展覧会。モダンデザインの流れを示すロートレックの全ポスター作品31点を一挙公開。



④

特別展

佐伯祐三 — 自画像としての風景

2023年4月15日(土)~6月25日(日)

大阪出身で、30歳で夭逝した天才洋画家・佐伯祐三の作品を一堂に集めた、大阪では15年ぶりの本格的な回顧展。大阪・東京・パリの3つの街に焦点を当て、風景画を中心に佐伯芸術の本質と魅力に迫る。



⑤

- ① 小出権重《街景》1925年／大阪中之島美術館蔵 [第1期出品]
- ② 早川良雄《第11回秋の秀彩会》1953年 大阪中之島美術館蔵 [第2期出品]
- ③ アメデオ・モディリアーニ《髪をほどいた横たわる裸婦》1917年／大阪中之島美術館蔵
- ④ アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック《ムーラン・ルージュ、ラ・グーリユ》1891年 サントリーポスターコレクション／大阪中之島美術館寄託(2月1日内覧会にて)
- ⑤ 佐伯祐三《レストラン(オテル・デュ・マルシェ)》1927年／大阪中之島美術館蔵



大阪中之島美術館

大阪市北区中之島4-3-1 TEL.06-6479-0550

開館時間 10:00~17:00(展覧会場への入場は閉館30分前まで)

月曜休館(祝日の場合は翌平日)

観覧料 展覧会ごとに異なる

アクセス

電車・京阪中之島線渡辺橋駅(2番出口)より徒歩約5分

・Osaka Metro四つ橋線肥後橋駅(4番出口)より徒歩約10分

・JR大阪環状線福島駅／東西線新福島駅(2番出口)より徒歩約10分

・阪神福島駅より徒歩約10分

バス・大阪シティバス JR大阪駅前より、53号・75号系統で「田蓑橋」下車、南西へ徒歩約2分

ホームページURL <https://nakka-art.jp>

